



自然遊学館 だより

2016 SPRING

No.79



海の学び報告会

2016年1月30日、日本財団からの助成を得て、大阪湾周辺の海辺を年間を通じ観察してきたことのまとめの報告会を行いました。於：コスモシアター小ホール

2016. 4. 25 発行 貝塚市立自然遊学館

目 次

*ネイチャーレポート

二色の浜海浜緑地でスナメリ漂着……山田浩二… 1

*行事レポート

春の七草摘みハイキング …… 白木江都子… 2

打ち上げ貝拾い …… 山田浩二… 4

*泉州生きもの情報

ジュウサンホシテントウ…… 岩崎 拓… 6

*館長コーナー

海の学びミュージアムサポート …… 高橋寛幸… 7

*生きものがかり

遊学館で飼育している生きもの 6…… 鈴子勝也… 14

* 寄贈標本 …… 15

* スタッフ日誌 …… 18



ネイチャーレポート

二色の浜海浜緑地でスナメリ漂着

平成 28 年 1 月 7 日午後 2 時頃、二色の浜海浜緑地の砂利浜でスナメリ（クジラ目ネズミイルカ科）の死体が打ち上がっているとの公園事務所から電話があり、さっそく現地に駆けつけました。波打ち際で波に揺られている状態で、比較的新鮮な目立った外傷のない個体でした（図 1）。これまで自然遊学館が確認している貝塚市に漂着したスナメリ 3 個体のうちではもっとも状態の良いものでした。公園事務所の方の協力で、軽トラックに乗せてとりあえず館まで運搬しました。サイズは全長約 165cm、体重 47.5 kg でした。



図 1. 打ち上げられたスナメリ

当館にはすでに貝塚市で打ち上げられたスナメリの全身骨格の標本を所有しているため、この個体をどうするか館内で話し合いがもたれました。きれいな個体なので、できれば剥製として保存してくれる博物館・水族館に引き取ってもらえればということになり、思い当たる施設に連絡を取りました。翌日、実物を見に来られる館も

ありましたが、なかなか引き取り手がみつからず、徐々に腐敗が進んでいくため最後は剥製化をあきらめ、その日のうちに須磨海浜水族園に持ち込むことになりました。

須磨海浜水族園に到着、担当の中村清美さんが受け入れ後、さっそくスナメリの各部の計測を始められました（図 2）。学術研究統括の亀崎直樹さんにもその個体を見てもらった後、これだけきれいな個体は稀なので、なんとか剥製にして残すことができないか方策を練ることに話が急展開しました。

現在、この個体は剥製製作業者のもとへ預けられ、冷凍庫で保管されています。



図 2. スナメリの各部の測定補助

謝辞

農林水産省へスナメリの座礁報告と学術所持の申請をして頂いた神戸市立須磨海浜水族園の中村清美氏、剥製化に向けてご尽力頂きました亀崎直樹氏にお礼申し上げます。

参考文献

- 岩崎 拓 (2007) 近木川河口にスナメリ漂着. 自然遊学館だより No. 43 : 11.
山田浩二 (2015) 二色の浜でのスナメリ漂着. 自然遊学館だより No. 74 : 6.

(山田 浩二)

行事レポート

春の七草摘みハイキング

日時：2016年1月6日(水)10:00～13:00

場所：蕎原ほの字の里周辺

参加者：22人

ほの字の里運動場に集まった参加者は11家族19人、年末来の暖かさは暑いほどです。運動場に広げた白紙の上に、ナズナ・ハハコグサ・ハコベ・セリの実物見本を並べました。見本のなかったコオニタビラコは、昔はホトケノザと呼ばれていましたが、現在はシソ科のホトケノザが別にあります。また、似た名前を持つオニタビラコやヤブタビラコもあり、名前で苦勞する植物です。ハハコグサとよく似た葉のチチコグサモドキ・ウラジロチチコグサ、ナズナの葉と似ているタンポポなどを、運動場の周辺から集めてきて本物の横に並べました。開始前に集まった人たちはのぞき込んだり、写真を写したりしておられました。



10時過ぎ、スタッフ3人の自己紹介をすませて、子どもたちに「七草と言えば何を知っている？」と尋ねてみました。「ナズナ」が一番多く、「コオニタビラコ」と答えてくれたのは、去年も参加したという女の子でした。「せり」「なずな」「ごぎょう

(ハハコグサ)」「はこべら(ハコベ)」「ほとけのざ(コオニタビラコ)」の特徴、それらと間違いやすい植物を実物で示し、白木と湯浅が説明を加えました。

「すずな(カブラ)」「すずしろ(ダイコン)」は、湯浅がプランターに播種し育てたものを家族の数だけ準備していることを伝え、蕎原の斉喜さんの田畑に入る許可をいただいているけれど、田んぼの畔を崩したりしないことなどをお願いして出発しました。

ほの字の里の坂を下りきったところに、元田んぼだった遊休地があり、例年通りここで七草を見分ける練習をします。この場所は、稲が作られなくなって以来、年ごとに荒廃し、帰化植物が増えています。七草の中では唯一セリが増えています。有毒のキツネノボタンと間違えないように、よく見てもらいました。この場所のキツネノボタンは下水が流れ込んでいるからか育ちが良く、葉をはじめパーツがみんな大きくて、セリと見間違える例にはありませんでした。



ハハコグサは下見の折に1株だけ見つけていましたが、参加者の小学生がそれを見つけてくれました。

一番手に入りにくく、特徴も言い表しにくいコオニタビラコは、帰化植物に負けて数が少なくなり、写真で学習しただけではなかなか見つかりにくかったのですが、参加者の1人が、崩れかけた畦で比較的大きな株を見つけられました。冬の間「コオニタビラコ」は、田んぼの端でロゼット状に葉を広げて養分を蓄え、春の初めにタンポポをぐーんと華奢にしたような花を咲かせますが、田植えの準備が始まるころには姿を消してしまいます。最近では性能の良い耕運機が、しっかり耕してしまうからでしょうか、蕎原の田んぼでも年ごとに少なくなっていくようで心配です。

俗にペンペン草と呼ばれている「ナズナ」は、斉喜さんの田畑への進入路で白い花を咲かせていました。「タネツケバナ」と似ていますが、葉っぱの切れ込み方や実莢の形が違います。ナズナの実莢は三味線のばちの形に似ていますが、これを切り離さない程度に引っばって茎にブラ下げる遊びは、とくにお母さんたちがよくご存知でした。

田んぼ跡では1株きりだった「ハハコグサ」は、斉喜さんの田んぼの畦道で、みんなが1株ずつ採ってもまだ余るほど見つかりました。ハハコグサの芽生えは、チチコグサモドキの芽生えと区別しにくいのですが、オオイヌノフグリもハハコグサやハコベと間違えられることもありました。

コオニタビラコは、斉喜さんの田んぼの縁にたくさん生えていました。ただ、コオニタビラコの小さな葉は特徴が少なく、他の植物との区別が難しいので、「これでいいのですか」と、たいていの人が確かめに

来られました。



どの家族も、自力で5種類を手に入れ、お腹を空かしてほの字の里に戻りました。

暖かい室内に大鍋の七草粥が運び込まれましたが、みんな礼儀正しく並んで順番を待ち、今年は漬物も1人分ずつ分けて置いて下さっていたので、お漬物争奪戦をしないですみました。

12月25日 下見時に確認した植物

- ワラビ科 イノモトソウ
- ウラボシ科 ヒトツバ・ノキシノブ
- カヤツリグサ科 メリケンガヤツリ
- イネ科 スズメノカタビラ・ナギナタガヤ
- アヤメ科 ニワゼキショウ・シャガ
- ヒガンバナ科 ヒガンバナ
- ユリ科 ジャノヒゲ・ノビル
- キク科 オニタビラコ・コオニタビラコ・チチコグサモドキ・ウラジロチチコグサ・ハハコグサ・セイヨウタンポポ・ヨシノアザミ・ノアザミ・アメリカオニアザミ・ヒメジョオン・ヒメムカシヨモギ・ハルノノグシ・オノノグシ・ノコンギク・ヨモギ・コセンダングサ・アメリカセンダングサ・セイタカアワダチソウ
- キキョウ科 ホタルブクロ
- スイカズラ科 スイカズラ
- オオバコ科 オオバコ

キツネノマゴ科 キツネノマゴ
 ゴマノハグサ科 オオイヌノフグリ
 ナス科 イヌホオズキ
 シソ科 ヤブチョロギ・ヒメオドリコソウ・ホト
 ケノザ・カキドオシ・トウバナ
 ムラサキ科 キウリグサ
 アカネ科 ヘクソカズラ・ヤエムグラ
 セリ科 セリ
 フウロソウ科 アメリカフウロ
 カタバミ科 オッタチカタバミ・カタバミ
 マメ科 カラスノエンドウ
 バラ科 ナワシロイチゴ・ヘビイチゴ・フユイチ
 ゴ
 ユキノシタ科 ユキノシタ
 アブラナ科 ナズナ・タネツケバナ・イヌガラシ・
 タガラシ
 ドクダミ科 ドクダミ
 キンボウゲ科 キツネノボタン・ヒメウズ
 ナデシコ科 オランダミミナグサ・ミドリハコ
 ベ・コハコベ
 タデ科 イヌタデ・ギンギン

(白木 江都子)

打ち上げ貝拾い

日時：2016年2月6日(土) 13:00～15:30

場所：近木川河口右岸前浜

参加者：41人

毎年、冬場の恒例行事になっている「打ち上げ貝拾い」を近木川河口の浜辺で行いました。講師に貝の専門家である児嶋 格さん、大古場正さんにお越し頂きました。

貝殻が多く漂着している打ち上げ帯を中心に 40 分ほどそれぞれ自由に貝殻を拾い集めました(図1)。館に戻り、2階を会

場にして、拾った貝殻等の名前を講師から教えていただきました(図2)。出現した種名はホワイトボードに書き出していき、計 61 種(巻貝 26 種、二枚貝 35 種)の海産貝類が拾えました(表1)。昨年の同行事の海産貝類は計 46 種、一昨年は計 44 種でしたので、より多くの種数の貝殻が拾えた行事となりました。特にフドロガイ、メダカラ、ミヤコボラ、カゴメガイ、イワガキ、キクザル、ミルクイ(図3)、ウズザクラ、トガリユウシオ、セミアサリ、イヨスダレ、キヌマトイガイ、カモメガイモドキ、オキナガイの 14 種は過去 5 年間の同行事では初めて記録された種となりました。



図1. 近木川河口で打ち上げ貝を拾う



図2. 拾った貝の名前を教えてください

表1. 観察会で確認した打ち上げのリスト

グループ		和 名	2016/2/6 41人	
腹足綱	ヨメガカサガイ科	ヨメガカサ	rr	
		マツバガイ	rr	
	ユキノカサガイ科	コモレビコガモガイ	rr	
		コウダカアオガイ	rr	
	ニシキウズ科	コシダカガンガラ	r	
		アシヤガイ	rr	
		インダタミ	r	
		チグサガイ	rr	
	サザエ科	サザエ	rr	
	アマオブネガイ科	イシマキガイ	c	
	タマキビ科	タマキビ	rr	
	ソデボラ科	フドロガイ	rr	
	カリバガサガイ科	シマメノウフネガイ	c	
	ムカデガイ科	オオヘビガイ	rr	
	タカラガイ科	メダカラ	rr	
	タマガイ科	ツメタガイ	c	
		アダムズタマガイ	rr	
	オキニシ科	ミヤコボラ	rr	
	アッキガイ科	カゴメガイ	rr	
		レイシガイ	rr	
		イボニシ	r	
		アカニシ	rr	
		フトコロガイ科	ムギガイ	r
		ムシロガイ科	アラムシロ	rr
		ブドウガイ科	ブドウガイ	r
		カラマツガイ科	キクノハナガイ	rr
	二枚貝綱	フネガイ科	カリガネエガイ	r
			サルボウガイ	c (L)
イガイ科		ムラサキイガイ	r	
		ホトギスガイ	c	
		ハボウキガイ科	タイラギ	r (L)
		イタヤガイ科	イタヤガイ	rr
		ナミマガシワ科	ナミマガシワ	c
		イタボガキ科	マガキ	cc
			イワガキ	rr
ツキガイ科		イセシラガイ	rr (L)	
キクザルガイ科		キクザル	rr	
ザルガイ科		トリガイ	r (L)	
バカガイ科		バカガイ	c	
		ミルクイ	rr (L)	
チドリマスオ科		クチバガイ	r (L)	
ニッコウガイ科		サクラガイ	r (L)	
		ウスザクラ	rr	
		ヒメシラトリガイ	r (L)	
		トグリユウシオ	rr	
シオサザナミガイ科		ハザクラ	rr (L)	
		イソシジミ	r (L)	
マテガイ科		マテガイ	r	
シジミ科		ヤマトシジミ	rr	
イワホリガイ科		セミアサリ	rr	
		ウスカラシオツガイ	rr	
マルスダレガイ科		オニアサリ	r	
		カガミガイ	r	
		アサリ	cc (L)	
	イヨスダレ	rr		
	ウチムラサキ	rr		
	オオノガイ科	オオノガイ	r	
	キヌマトイガイ科	キヌマトイガイ	rr	
		ナミガイ	rr	
	ニオガイ科	カモメガイモドキ	rr (L)	
淡水産	オキナガイ科	オキナガイ	rr	
	タニシ科	ヒメタニシ	rr	
	リンゴガイ科	スクミリンゴガイ	c	
	陸産	アズキガイ科	アズキガイ	r
	キセルガイ科	ツムガタギセル	rr	
	オナジマイマイ科	オオケマイマイ	rr	
		クチベニマイマイ	rr	
		クチマグリマイマイ	rr	
頭足綱	コウイカ科	コウイカ科の一種	rr	
甲殻類	ホンヤドカリ科	ヨモギホンヤドカリ	rr	
	モガニ科	ヨツハモガニ	rr	
	ガザミ科	タイワンガザミ	r	
	オウギガニ科	スベスベオウギガニ	rr	
	モクスガニ科	モクスガニ	r	
		ヒライソガイ	r	
ヒトデ類	モミジガイ科	モミジガイ	r	
ウニ類	サンショウウニ科	サンショウウニ	r	
	ヒラタフンブク科	オカメフンブク	r	
多毛類	カンザシゴカイ科	カンザシゴカイ類の椀管	r	
腕足類	シャミセンガイ科	シャミセンガイ科の一種	rr	
計			80	

凡例：数量……cc 多数、c 普通、r 少数、rr ごく少数 生体確認……(L)



図3. 打ち上げられたミルクイ
(軟体の残った新鮮な個体もありました。)

続いては、本行事の参加記念となる壁飾り作りです。自分で拾った貝殻の中から、お気に入りのものを選んで自分のデザインで紙皿へ貼っていき、各々の種名を記して完成させました。



図4. 貝殻の壁飾り完成！

(山田 浩二)



泉州生きもの情報

ジュウサンホシテントウ

昨年の 12 月 8 日、街中昆虫調査の日でした。冬の街中という条件では、見られる虫も少ないのが当然ですが、それでも 4 時間歩き回ると 25 種ほど確認できました。途中、調査ルート上の海塚の空き地で「何ハムシかな？」と思ってフィルムケースに入れたのが写真の虫です。館に戻って甲虫図鑑で調べると、ハムシ科ではなく、テントウムシ科のジュウサンホシテントウ *Hippodamia tredecimpunctata* であることが分かりました。



ジュウサンホシテントウ
(貝塚市海塚産、2015 年 12 月 8 日)

写真では後方の紋が分かりにくいですが、翅に 13 個の黒色の紋があります。テントウムシの仲間は丸形に近いものがほとんどですが、これは長細い形をしています。その分、ハムシくらいに脚が長く見えます。でも、触角が短くて、先の節が太くなっているのはハムシ科にない特徴です。ヨシ原などにすみ、アブラムシを食べるそうです (初宿、1999)。

和泉市の信太山では、2002 年と 2004 年に確認していたのに、10 年以上見ていないうちに、姿形をすっかり忘れていました。

『大阪府レッドリスト 2014』では、準絶滅危惧に指定されています。街中のタダの空き地で、レッドリスト種を確認できたのは意外でした。

ジュウサンホシテントウを加えて、自然遊学館が所蔵している貝塚市産テントウムシ科は 29 種になりました。ここ数年、種数は増えていなかったのですが、2015 年 7 月 6 日に 28 種目となるマクガタテントウを二色の浜で採集して、種数の更新をしたところでした。『大阪府野生生物目録』では、府下で 51 種、府南部で 35 種が確認されているので、29 種からもう少し増えるかもしれません。

自然遊学館が所蔵する 貝塚市産テントウムシ科標本のリスト (2015年12月末時点)

亜科	種
ヒメテントウムシ亜科	
	ハレヤヒメテントウ
	カグヤヒメテントウ
	ツマアカヒメテントウ
	コクロヒメテントウ
	フタホシテントウ
クチビルテントウムシ亜科	
	ヨツボシテントウ
	アカホシテントウ
	ヒメアカホシテントウ
	ミスジキイロテントウ
ヒラタテントウムシ亜科	
	ベニヘリテントウ
	ベダリアテントウ

テントウムシ亜科

ジュウサンホシテントウ
ナナホシテントウ
マクガタテントウ
ムツキボシテントウ
ウスキホシテントウ
ヒメカメノコテントウ
シロトホシテントウ
シロジュウシホシテントウ
ムーアシロホシテントウ
ナミテントウ
ダンドラテントウ
カメノコテントウ
キイロテントウ
シロホシテントウ
クモガタテントウ

マダラテントウムシ亜科

ニジュウヤホシテントウ
オオニジュウヤホシテントウ
トホシテントウ

引用文献

- 『大阪府野生生物目録』（大阪府、2000）
『大阪府レッドリスト2014』（大阪府、2014）
『ミニガイド No. 16 大阪のテントウムシ』（初宿
成彦、1999）

（岩崎 拓）

館長コーナー

今年度新規事業として取り組んだ事業

【事業名と実施期間】

もっと知ろう関西の海・大阪湾探検隊出動

平成27年5月1日（金）

～平成28年2月28日（日）



【事業の目標】

- ・身近な大阪湾の生きものの観察・調査活

動を通して、海の生きものに親しみ、見た事、考えた事、知ったことを通して、海への理解や保全意識を高めることを目的とします。

- ・大阪湾沿岸の中から観察ポイントを選択し、現地に出かけ観察・調査を行うことで生きものを知るとともに、今まで気づかなかった大阪湾の現状や問題を知り、自分たちでできることは何だろうと考え、実践する人々を育成します。



シュノーケリングでアマモ観察会・開会式
（平成27年7月18日実施）

【活動の概要】

大阪湾を知る大きな流れとして、4つのコースに分けて行いました。4つのコースは以下の通りです。

1. 貝塚の海と河口の生きもの調べ
 - ・渚の生きもの調べと地曳網体験（5月）
 - ・ビーチクリーンと稚魚放流（6月）
 - ・親子海釣り体験（6月）
 - ・アマモ観察会（7月）
 - ・カニ釣り、河口の生きもの調べと地曳網体験（9月）
 - ・漂着物調べ（12月）

2. 施設見学

(バックヤード見学と講座)

神戸市立須磨海浜水族園

3. 現地見学

(ウミガメ産卵地、ウミホタル)

ウミガメ産卵地 2箇所見学

- ・和歌山県南部町 (8月)
- ・兵庫県淡路島 洲本市由良 (8月)
- ウミホタルと海藻おしば (10月)

4. 報告会

海の学び報告会 (1月)

コスモスシアター 小ホール

【活動内容】

1. 貝塚の海と河口の生きもの調べ

(場所) 二色の浜と近木川河口

- ・渚の生きもの調べと地曳網体験
平成 27 年 5 月 31 日 (土) 46 人参加
- ・ビーチクリーンと稚魚放流
平成 27 年 6 月 6 日 (土) 54 人参加
- ・親子海釣り体験
平成 27 年 6 月 20 日 (土) 28 人参加
- ・アマモ観察会
平成 27 年 7 月 18 日 (土) 32 人参加
- ・カニ釣り、河口の生きもの調べと地曳網
平成 27 年 9 月 12 日 (土) 63 人参加
- ・漂着物調べ
(天候不順の為参加者無し) 中止



渚の生きもの調べの様子



ビーチクリーンの様子



稚魚放流の様子

2. 施設見学

(バックヤード見学とウミガメ講座)

- ・神戸市立須磨海浜水族園見学
平成 27 年 6 月 27 日 (土) 52 人参加

ウミガメやスナメリの調査研究で有名な施設見学です。職員の方からウミガメの特徴を聞き、その生態と現状を知り、その後バックヤードを見学しました。



ウミガメ講座



アオウミガメに触ったよ

最初水族園の方からウミガメの話を聞きました。初めてウミガメにさわりました。次にバックヤード見学をしました。



バックヤード見学 1



バックヤード見学 2

3. 現地見学

(ウミガメ産卵地見学とウミホタル観察)

ウミガメ産卵地見学

・和歌山県南部町 千里浜

平成 27 年 8 月 1 日 (土) 46 人参加

・兵庫県淡路島 洲本市由良 成ヶ島

平成 27 年 8 月 29 日 (土) 48 人参加

ウミガメ産卵記録のある場所大阪湾の南、千里浜 (和歌山県南部町)、淡路島の成ヶ島 (兵庫県洲本市由良) に出かけ、観察会をしました。

ウミガメ産卵場所見学 1 (千里浜)



干潟観察

ウミガメ産卵地見学2（成ヶ島）



ウミガメが産卵しやすいように砂浜のゴミ拾い



採取した生きものの説明を受ける参加者1



干潟の生きものの調べ

海藻おしば体験とウミホテル観察

・せんなん里海公園と青少年海洋センター

平成 27 年 10 月 17 日（土）27 人参加

はじめに、きれいな海に生息する海藻を使った海藻おしば体験を行い、次に日の暮れた海に出かけ、ウミホテルの採集と観察会を行いました。

<海藻おしば体験>

大阪府岬町淡輪、せんなん里海公園施設内にて行いました。海藻おしば協会の方から作り方などを教えてもらいました。



採取した生きものの説明を受ける参加者2



砂浜に移動しウミガメの産卵場所を観察



講師から海藻おしばの話聞く参加者

<ウミホテルの話と観察>

海藻おしば体験の後、大阪府立青少年海洋センターに移動して講師よりウミホテルの説明を聞きました。



ウミホテル講座（特徴を事前に学習）

この後砂浜に移動しウミホテルの採集と観察会を行いました。

4. 海の学び報告会

平成 28 年 1 月 30 日（土）

貝塚市コスモシアター 小ホール

11 時開場、13 時報告会

報告会参加者数：40 人

午前中は会場内を自由に見学できるようにしました。午後からは、海の学びミュージアムサポート事業『もっと知ろう関西の海・大阪湾探検隊出動』に参加した人たちから、感想や意見を発表してもらいました。自分で感じた事やまとめた事を自分なりにまとめ、会場にいる人たちに伝えてもらいました。

同じように大阪湾の生きもの調べをしている中学生や高校生から話を聞きました。最後に専門家の先生から、大阪湾の今の様子やこれから自分たちでできることの提言をしていただきました。

報告会のタイトル

ー 生きものの棲みやすい素敵な海にするために私たちにできることは何だろう ー



当日の会場の掲示物

報告のための資料掲示の様子



行事参加者の報告 1



行事参加者の報告 2



行事参加者の報告 3



中学生の報告



高校生の報告



講師からの提言



記念講演

【まとめ ～事業を終えて～】

参加者のアンケート自由記述欄より抜粋

- ・とても楽しく参加できました。子どもも楽しんでいました。
- ・二色の浜は汚いので潜るのに抵抗がありましたが、思ったよりも汚くなかったので（水は濁っていましたが）、楽しく観察出来ました。ゴミが浮いていたりしたので、掃除活動があればやってみたいです。
- ・身近な川や海の生きものの話が聞けて勉強になります。（渚の生きものしらべより）
- ・ゴミ集めも子どもにとっていい勉強になります。（ビーチクリーンと稚魚放流より）
- ・海をもっときれいにしたいと思いました。たくさんのゴミが落ちていることにショックを受けた。
- ・初めてだったので教えてもらって良かったです。（親子海釣り体験より）
- ・家族でシュノーケリングや地曳網体験ができて子どもも楽しかったようでとても良かったです。生きものの名前も教えてもらえるので、とても良かったです。（アマモ観察会より）
- ・普段の生活では見せられない生きものを子どもたちに見せることができて良かった。（カニ釣りより）
- ・近木川にもたくさん生きものが居て勉強になりました。（河口の生きもの調べと地曳網体験より）
- ・身近な川や海の生きものの話が聞けて勉強になります。（渚の生きものしらべより）
- ・ゴミ集めも子どもにとっていい勉強になります。（ビーチクリーンと稚魚放流より）
- ・海をもっときれいにしたいと思いました。たくさんのゴミが落ちていることにショ

- ・ ックを受けた。
- ・ 初めてだったので教えてもらって良かったです。(親子海釣り体験より)
- ・ 家族でシュノーケリングや地曳網体験ができて子どもも楽しかったようでとても良かったです。生きものの名前も教えてもらえるので、とても良かったです。(アマモ観察会より)
- ・ 普段の生活では見せられない生きものを子どもたちに見せることができて良かった。(カニ釣りより)
- ・ 近木川にもたくさん生きものが居て勉強になりました。(河口の生きもの調べと地曳網体験より)
- ・ 子どもたちに普段は見学できないバックヤードを見学させてあげられたのでとても良かったです。
- ・ 実際にウミガメに触れてよかった。ウミガメについてもっと知りたい。
- ・ ウミガメをもっと守っていかないとだめだと思いました。
- ・ 今後も大阪湾周辺の自然について、子どもと一緒に勉強したい。絶滅の危機の恐れのある生きものについて学びたい。
- ・ 何もかも新鮮でとても楽しかったです。いろいろありがとうございました。
- ・ 昼からの自由行動で『ふれあい』に行ったらサメやカメのエサやり等々好きな体験もできたので、小1(6歳)の子も楽しく過ごせました。学習やバックヤード見学は1年生にはまだ退屈なようでした。
- ・ (略) 海の生きものへの関心と理解、自然を守っていくことの必要性を考える事の出来た一日でした。
- ・ 機会があれば夜に観察したい

- ・ ウミガメの上陸回数が年々減ってきているということですが、環境悪化しているのか心配です。
- ・ 成ヶ島に来てアマモがたくさん生えていることに感動しました。(略) ペットボトのゴミが多かった。
- ・ すごく分かりやすくとても楽しかったけど、魚のとりかたが分からなくて1匹も捕れなかったから今度魚の捕り方を教えてください。
- ・ ウミホタルの神秘的な光は何とも言えないきれいな光でした。学校では時間的にも無理な今回のような体験型イベントは親子ともども楽しめました。
- ・ 参加者の家族での発表や中学生・高校生の発表はとても良かったです。
- ・ 山のような素敵な活動を今後も続けてください。
- ・ 行事に参加した家族が「楽しかった」で終わらずに、アマモについて調べたり色々考えて報告して下さったのが感激でした。
- ・ 講評をたくさんいただきこれからの研究に生かされるような提言をたくさんもらい勉強になった。
- ・ もっと会場で意見交換をしたかった。
- ・ 講師の方のお話が非常にわかりやすくそして、興味深かった。
- ・ 参加者をもっと増やしてほしい。

【行事参加者のアンケートの集計から】

参加者の今回の行事に関する海の学びの意識に関する考察を述べてみます。

以下の表から分かるように、観察会での満足度(満足☆の縦の欄)は高いけれど、報告会(10番の横の欄)の満足度は高くな

いことが分かります。

このことから参加者は観察や体験には満足したが、最後のまとめ（報告会※）に関してやや不満が残ることを訴えています。

そのほかにも4番や9番の行事にもやや不満を残しているようでした。

三者的な姿勢から積極的に課題に取り組み実践する姿勢に向けていくこと。

そして、最後の報告会ではお互いの意見を交換し互いに高めていくことを目指す必要があると思います。

（高橋 寛幸）

【設問1】今日の活動は満足できましたか				
行事	満足☆	ふつう	不満	形式
1	100.0%	0.0%	0.0%	観察会
2	94.1%	5.9%	0.0%	観察会
3	100.0%	0.0%	0.0%	観察会
4	76.9%	15.4%	7.7%	観察会
5	100.0%	0.0%	0.0%	観察会
6	100.0%	0.0%	0.0%	観察会
7	100.0%	0.0%	0.0%	観察会
8	92.3%	7.7%	0.0%	観察会
9	80.0%	20.0%	0.0%	観察会
10	53.3%	46.7%	0.0%	報告会
合計	88.8%	10.3%	0.9%	

行事一覧

- 1 渚の生きもの調べと地曳網体験
- 2 神戸市立須磨海浜水族園見学
- 3 和歌山県南部町 千里浜
- 4 兵庫県洲本市由良 成ヶ島
- 5 海藻おしぼとウミホタル観察
- 6 ビーチクリーンと稚魚放流
- 7 親子海釣り体験
- 8 カニ釣りと河口の生きもの調べ
- 9 アマモ観察会
- 10 海の学び報告会

本事業の今後の課題は、参加した人たちの事後のまとめ（それぞれの情報を提供し共有化することで自分の考えを広げ、今後の態度を決めていく）をしっかりと行い、行事ごとに見える問題や課題を整理し、ただ単に観察会に参加するという第

いきものがかり

遊学館で飼育している生きもの6

新年度が始まり、初心を忘れず、展示や生きものの飼育を頑張っていきます。今年も皆さんに展示を楽しく見やすくするために努力していこうと思います。

今回は、アカハライモリとカメの紹介します。



図1. アカハライモリ

アカハライモリは、名前の通り、赤いお腹をしていて、黒い斑の点が特徴です。エサは、アカムシやザリガニのエサなどで、スポイドを使いアカムシを吸い上げアカハライモリの近くに落とすと、すぐに反応します。お腹には、テトロドトキシンという、フグなどにもある毒をもっています。ですが、触った手で目を擦ったり口に触らないかぎり、全く問題ありません。アカハ

ライモリを触ったら、手をよく洗うようにしましょう。

次にカメの紹介をしたいと思います。自然遊学館では、2種類のカメを飼育しています。クサガメとミシシippアカミミガメです。クサガメは幼体の頃、ゼニガメという名前で呼ばれていて、ペットショップなどで売られていることがあります。特徴は、背甲が黒色でキールと呼ばれる縦方向に入る盛り上がりが3本あります。雑食性なので、水草や魚、甲殻類なども食べます。クサガメの名前にもなっているのですが、臭い匂いがすることから名前が付いたそうです。しかし、飼育をしっかりしていれば、臭い匂いはしなくなります。

ミシシippアカミミガメは、外来種で川や池などでも普通に見られるようになりました。幼体の時は、ミドリガメという名前で呼ばれ、ペットショップで売られています。特徴は、背甲が緑褐色、頬が赤くなっていることです。クサガメと同じく雑食性です。ミシシippアカミミガメは要注意外来生物に指定されていて、川や池に逃がしたりしてはいけません。飼育している方は、責任を持って飼育して下さい（図2）。

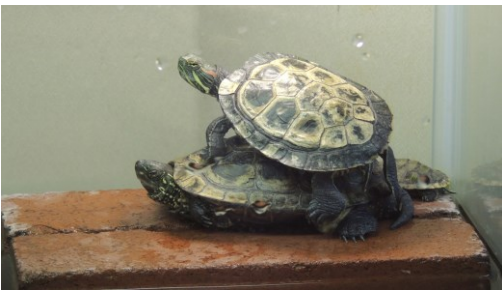


図2. (上) ミシシippアカミミガメ (下) クサガメ

(鈴子 勝也)

寄贈標本

<哺乳類>

- ◆奥野晃司さんより
ネコの骨 1点
貝塚市二色の浜 2016年1月16日採集
(和田岳氏による同定)
- ◆川崎佑宇・佐々木楓奈・
やまおくゆうたさんより
アブラコウモリ 死体1点
貝塚市二色 2016年2月6日採集

<鳥類>

- ◆大阪府立少年自然の家より
メジロ 死体1点
貝塚市木積 2015年1月29日採集
シロハラ 死体1点
貝塚市木積 2015年12月5日採集
シロハラ 死体1点
貝塚市木積 2015年12月9日採集

<爬虫類>

- ◆大阪府立少年自然の家より
ヤマカガシ 死体1点
貝塚市木積 2014年9月27日採集

<魚類>

- ◆川口博さんより
ウスバハギ 死体1点
貝塚市二色の浜
2016年1月16日打ち上げ採集
- ◆福島秀人さんより
カサゴ 生体4点
泉佐野市りんくう往来北
2016年3月26日採集

<棘皮動物>

◆濱谷巖さんより

パイプウニ 1点

鹿児島県奄美大島笠利

1990年3月29日採集

◆常道武士さんより

バフンウニ 殻1点

貝塚市二色の浜 2016年3月2日採集

<軟体動物>

◆濱谷巖さんより

ナミギセル 2点

貝塚市水間 1998年7月23日採集

<節足動物>

◆西出康介さんより

ヒラコブシガニ 2点

2015年12月22日 佐野漁港譲受品

2016年3月3日 佐野漁港譲渡品

トゲツノヤドカリ 生体5点

2016年2月2日 佐野漁港譲受品

ヒメガザミ 生体3点

フタホシイシガニ 生体1点

2016年2月4日 佐野漁港譲受品

<昆虫>

◆清水寛承さんより

カイコガ 成虫2点、卵多数

飼育品

◆沖原均さんより

キイロスズメバチ 古巣1点

貝塚市二色 2016年2月4日採集

◆福島秀人さんより

スズメガ科の一種 蛹1点

貝塚市二色 2016年2月15日採集

◆今津翔真さんより

セグロアシナガバチ 古巣1点

貝塚市二色 2016年3月24日採集

<寄贈写真>

◆覚野良子さんより

イチリンソウ 3枚

貝塚市蕎原 2015年5月5日撮影

ギンリョウソウモドキ 2枚

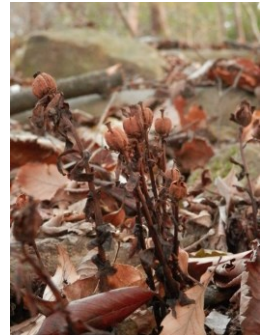
貝塚市蕎原 2015年9月12日撮影

ギンリョウソウモドキ 2枚

貝塚市蕎原 2015年11月12日撮影

ギンリョウソウモドキ 2枚

貝塚市蕎原 2015年12月19日撮影



ギンリョウソウモドキ

貝塚市蕎原 覚野良子さん撮影

(左) 2015. 9. 12 (右) 2015. 12. 19

イチヤクソウ 1枚

ユキワリイチゲ 5枚

ヤマネコノメソウ 1枚

ナベナ 3枚

ミソサザイ 1枚

モミジガサ 1枚

アオキ 1枚

オオアリドオシ 3枚

その他 5枚

貝塚市蕎原 2016年2月11日撮影



ユキワリイチゲ

貝塚市蕎原 2016. 2. 11 覚野良子さん撮影

ユキワリイチゲ 3枚
貝塚市蕎原 2016年2月26日撮影
イワボタン類 8枚
カシラダカ 1枚
ギンリョウソウモドキ 1枚
コガネネコノメソウ 4枚
コショウノキ 2枚
ナツトウダイ 1枚
フデリンドウ 4枚
ミヤマウズラ 2枚
ヤマルリソウ 1枚
アカミヤドリギ 3枚
その他 2枚
貝塚市蕎原 2016年2月28日撮影



コガネネコノメソウ

貝塚市蕎原 2016. 2. 28 覚野良子さん撮影

◆藤村雅志さんより

アメリカヒドリ 3枚

貝塚市近木川河口 2016年3月3日撮影

アメリカヒドリ 3枚

貝塚市近木川河口 2016年3月22日撮影



アメリカヒドリ♂幼鳥

貝塚市近木川河口 2016. 3. 3 藤村雅志さん撮影

◆鈴子佐幸さんより

スズガモ 10枚

ハシボソガラス 3枚

貝塚市近木川河口 2016年3月29日撮影

＜目撃情報＞

◆五藤武史さんより

キタキチョウ 3個体

キタテハ 1個体

高石市浜寺公園 2016年3月5日採集

スタッフ日誌

2月3日、葛城小学校の先生方の研修会で、「葛城学のための葛城校区の動植物」の話をしました。動物や近木川の生きものはデータが揃ってきましたが、昆虫と植物は、これからの調査で種数がまだまだ増えると思います。(岩・山・湯)

2月16日、福島県で開催された科学教室の研修会のついでに、環境水族館アクアマリンふくしまへ行ってきました。福島県沖合の黒潮と親潮が会う「潮目の海」をテーマにした水族館で、日光が直接降り注ぐ大水槽の魚たちは生き生きとしているように思えました。バックヤードも案内頂きましたが、ここではボランティアスタッフの方が活躍されていました。(山)

2月18日、二色小学校科学クラブに、きしわだ自然資料館と合同で、チリメンモンスターの講師として行きました。大阪湾で2015年11月～2016年1月に採れたチリメンモンスターを使いました。講師として行くのはあまりないことなので、良い経験になりました。(鈴)

3月1日、二色の浜公園管理事務所の方が二色小学校6年生、約60名と一緒に松に巻いたコモを外してどんな生きものがあるのかを調べる授業に参加しました。コモ巻きの第一の目的であるマツカレハは、幼虫2+古い繭1と少なく、メガネヤチグモが一番多いという結果は、一昨年、昨年と同じでした。ラクダムシの幼虫がいたのも同じです。キバラヘリカメムシは当館に3

個体しか標本がなかったのに、この日に3個体の追加となりました。キンイロエビグモというこれまで遊学館に標本がなかったクモが1個体採れました。(岩)

3月5日、まだ貝塚市脇浜に漁業協同組合があった昭和時代の地曳網漁業届出鑑札という木の札の寄贈を受けました。よく館に来てくれる、お魚に大変詳しい二色小学校6年生の西出康介さんの祖父が大阪府より交付を受けたもので、昭和14年付と書かれています。貝塚市史でしか知る由もなかった本市での漁業の営みの貴重な物証です。(山)

* 自然遊学館だよりのバックナンバーは、下記のホームページよりご覧いただけます。

自然遊学館だより 2016 春号 (No. 79)

貝塚市立自然遊学館

〒597-0091

大阪府貝塚市二色3丁目26-1

Tel. 072 (431) 8457

Fax. 072 (431) 8458

E-mail: shizen@city.kaizuka.lg.jp

<http://www.city.kaizuka.lg.jp/shizen/>

発行日 2016. 4. 25

この小冊子は庁内印刷で作成しています。